

葛飾区民児協だより

かつしか



発行
葛飾区民生委員児童委員協議会
葛飾区福祉部福祉管理課 内

発行人 小林 隆猛

編集 広報部会

〒124-8555

葛飾区立石 5-13-1

Tel. 5654-8244 (直通)

第37号

葛飾区「民生委員・児童委員の日」記念大会の報告・亀有駅前街頭PR活動、
子育て支援部会・児童福祉部会報告、小地域福祉活動：亀有地区・高砂地区・新小岩北地区、
地域のトピックス：新宿地区・亀有地区、編集後記



令和7年記念大会が、5月15日（木）、かめありリリオホールで開催されました。大会に先立ち、プレイベントとして亀有駅前で、青木区長とともに啓発グッズを通行客に配布しました。社協のポップなマスコットキャラクターのアエナちゃんも参加し、「えっ、なに?」「…民生委員?」「お名前は?」「一緒に写真を撮りましょう」など、通行客と気さくな会話が飛び交いました。

会場の絆深める令和7年「民生委員・児童委員の日」記念大会

第一部は、小林会長から青木区長へ「一日民生委員」の委嘱状が手渡され、「民生委員・児童委員信条」の朗読と葛飾区歌を斉唱しました。

第二部は、コールエレガントのコーラス。会場一同で手話を交え「ふるさと」を歌いました。続いて舞台いっぱいには有志委員の「民生音頭」が披露されました。今年は例年よりも参加者が増えていたと感じました。

第三部は、社会活動家で東京大学特任教授、全国こども食堂センター・むすびえ理事長の湯浅誠氏による記念講演です。ところが飛行機の遅れにより、湯浅氏が会場に到着していないことがアナウンスされると同時に、会場から失望のため息があり、あらためて湯浅氏の講演の期待度がうかがえました。湯浅氏のオンライン講演の準備が整うまで、急遽コールエレガント指揮者の吉田寛子氏がピアノと歌、体操でつないでくださいました。果して会場の大型モニターに羽田空港ロビーの湯浅氏が映し出されると会場から安堵の声が上がりました。

講演は、ご自身の高齢の母親の希薄になった交流関係から始まりました。「人口減少とともに社会のつながりも希薄になっていきます。これを取り戻すには、高齢者同士だけでなく、世代や分野を超えた“つながり”を広げていくことが大切です。その橋渡しをするのが、私たち民生委員です。人は不安になったときつながりがある人や、つながりを感じる人がいると安心します。このことは、こども食堂にも通じています。30分ほどの講演でした。思いがけないライブ体験に会場が率直に反応し印象深い大会でした。（山田 米子）



子育て支援部会

情報交換で気付き地域の
子育ての違い

子育て支援部会では、主に就学前のお子さんへの支援について、部員それぞれの地域の子育て情報を交換しています。

民生委員として保育園、児童館にお手伝いに行く地域によって子育て支援に違いがあることに気付きます。こうした経験を踏まえ、令和6年度は7月に、子育て支援の複合施設「こども未来プラザ鎌倉」と「にこわ新小岩 子ども未来プラザ」の2施設を見学しました。

これらの施設は、0歳から18歳までの子どもたちが利用でき、多様な家庭のニーズに対応する複合的な支援施設です。

「にこわ新小岩 子ども未来プラザ」は、1～5歳までの約140名の幼児が通う保育園を併設しています。園長先生は「最近男性も子育てが普通になってきました。育児を取得するお父さんも増えていきます。」と話されました。

12月には講演会「児童相談所開所1年の現状」を開催しました。「民生委員として何ができるか」という質問に「よく泣いている、

外に出されている、などがあつたら児童相談所に通告してください」と返答されました。

部員は二期目の人が多く、施設見学や部会運営にも協力的で活発な活動ができました。「意見を出し合うことで見えてくるものがある」と実感しました。今後は、子育て家庭への「見守り力」を部員とともに高めていきたいと考えています。
(桂野 節子)



児童福祉部会

現場を訪ねて見えたこと

コロナ禍による活動制限が緩和され、児童福祉の現場を訪問できるようにになりました。令和5年7

月には、15名の部員で「にこわ新小岩 子ども未来プラザ」を見学しました。楽しく遊ぶ子どもたちを、館長さんが丁寧に案内してくださいました。

令和6年6月には、主任児童委員の方々と児童福祉部会4名が合同で、特別支援学校「保田しおさい学校」を訪問しました。学校に行けない理由を抱えた児童たちが、自然豊かな環境の中で明るく学んでいます。私たちは三つの班に分かれて児童の案内で校内を見学し、昼食も共にしながら、児童それぞれの背景や今の素直な気持ちを聞くことができました。

私自身は体調不良により十分な活動ができなく残念ですが、残りの任期でも見学や講演会を通じて、部員と共に児童福祉の課題を考えたいと思っています。
(鈴木 正則)



小地域福祉活動

亀有花風船の会

10年のあゆみ

花でまちを元気に!

「亀有花風船の会」

11年目に入りました



亀有地区で小地域福祉活動を行っている「亀有花風船の会」は、この6月で活動開始から11年目を迎えました。活動のきっかけは、駅前の放置自転車がなくそうと、個人が区の相談を受けてプランターを設置し、花を植え始めたことでした。これをきっかけに、「花が好き」という共通の思いを持つ地域の高齢者に民生委員・町会が声をかけて、地域ぐるみの取り組みへと広がっていきました。

現在では、町会連合会、高齢者

「亀有花風船の会10年の歩み」記念誌を発行しました。創立10年と国土交通大臣表彰を記念し、祝辞や活動写真、花壇コンクールの受賞報告など盛りだくさんの内容です。会員の元気な様子がよみがえります。記念誌は全地区会長と行政にも配布しました。

次の20年に向けて明るく元気に活動していきましょう



クラブ、商店街、高齢者総合相談センターのご協力もいただきながら約100名の会員が8つの班に分かれて活動しています。水曜・土曜の週2回、駅前での水やりや清掃、花がら摘みを行い、年に4回の花の植え付けやイベントの開催、年1回の寄せ植え研修会など、にぎやかに活動を続けています。年間のべ参加人数は、多い年で1150名にもなります。とはいえ、70代・80代の会員の方は少なからず引退をしています。いつも仲間集めに努力しているところ（佐藤 正治）

高砂地区

災害に備えよう！ 講演会



避難所で何が起きるかを 体験しながら学びました

令和7年3月17日（月）、高砂地区民児協では町会と一緒に「避難所での被災者への支援で大切なこと」をテーマにNPO法人Hag Over Japan代表の佐藤純氏を招き開催しました。はじめに町会ごとのグループに分かれ「避難所ゲーム」をしました。実際に避難所で起こりうるさまざまな課題に次々と対応していきました。ペット同伴、高齢者や乳児連れ、発熱やケガをした人など、想定される状況にどう対応するか。毛布の配布やボランティアの受け入れ、限られた空間の使い方など、グループで話し合いながら避難所の運営をゲームで体験しました。



令和6年9月7日（土）、にこわ新小岩の多目的ホールにて「出張

懐かしの名曲で心ひとつに

地域に響いた笑顔と歌声

新小岩北地区 出張 歌声喫茶



特に深刻だったのはトイレの問題でした。仮設トイレの設置に最大7日間かかったケースもあり、「最低でも7日分の備蓄トイレの準備が必要です」と語られました。また、家具の転倒によるケガも多く、一部屋だけでも安全な空間を作ることが大切だと強調されました。参加者は町会関係者34名、民生委員19名の計53名でした。ほとんどが避難所運営の訓練は初めての経験でしたが、「実感を伴う学びができた」と好評でした。他の地区でもこのような「避難所体験ゲーム」をぜひ実施してほしいと感じました。（栗原 辰司）



歌声喫茶を開催しました。厳しい暑さの中、75名の方々が参加しました。イベントは、防犯対策に関する葛飾区危機管理課生活安全係のお話のあと歌声喫茶を開催しました。ピアノ演奏は、高田馬場「ともしび」店長の齊藤隆氏、司会兼リードボーカルにオペレッタ劇団「ともしび」代表の本道亮氏をお迎えしました。「若者たち」「青い山脈」など懐かしい楽曲を中心に、リクエスト曲も交えながら、約2時間にわたり楽しく歌いました。参加者の中には初めての方や親子での参加もありました。「また参加したい」「ストレス解消になった」「懐

かしい曲が歌えて楽しかった」といった感想が多数ありました。歌うことは健康にも良い効果があると思います。今後もこうした健康と交流を兼ねたイベントを続けていきたいと思っています。

(岡安悦美子)

地域のトピックス

新宿地区

本所防災館での 研修報告



令和6年10月5日(土) 新宿地区では研修活動の一環として、東京消防庁の「本所防災館」で災害体験ツアー(暴風雨・都市型水害コース)に参加しました。

はじめに、過去の災害映像を見て、防災について学びました。続いて暴風雨体験です。レインウェアと長靴で装備を整え、体験室に入ると、経験したことのないような激しい風雨が襲ってきました。参加者は手すりをしっかりと握り、顎を引いて必死に耐えました。「踏ん張った!」「こんな時に外に出るのは危険!」と、体験後に感想が飛び交いました。

次に行ったのは煙体験です。火災が起きる仕組みや初期対応の方法、安全な避難の仕方について説明を受けた後、煙が充満した部屋をタオルで口を覆い、姿勢を低くして壁づたいに進みます。視界は悪く、本当の火災なら息をするのも困難だと実感しました。そして、浸水した道路で車から脱出するには大変な力がある事も学びました。私が最も印象に残ったのは地震体験です。東日本大震災の揺れを再現した地震の体験をしました。東北出身の私は、当時、実家での一人暮らしだった母のことを思い出しました。現在、葛飾区でも災害対策が進み、各家庭での防災意識も高まりつつあります。今回の研修で得た体験や知識が、災害に対する「心の備え」となりました。

(斉藤恵子)



亀有地区

「36回『緑の愛護』の集い」受賞

令和7年6月7日(土)、千葉県松戸市の森のホール21にて「第36回全国『みどりの愛護』の集い」が開催されました。式典には秋篠宮皇嗣殿下、同妃殿下がご臨席になり、全国から選ばれた94団体に中野国土交通大臣より感謝状が贈られました。



葛飾区からは、下記の3団体が
受賞の栄誉を受けました。

- 葛飾緑化推進協議会
- 葛飾の川をきれいにする会
- 亀有花風船の会

式典では、小学6年生の男女2名が「自然を守り、みどりを大切にする豊かな心を持ち続ける」と誓いの言葉を述べました。その後、会場を「21世紀の森と広場」に移し、記念植樹が行われました。両殿下もエドヒガン(桜)の苗木をお手植えになりました。帰り際には、運営に関わった小・中・高校生と親しく懇談すると会場の空気もやわらぎました。

なお、来年の第37回大会は葛飾区での開催が予定されています。

「亀有花風船の会」では6月27日(金)に活動のあと地区センターにおいて、会員向けの受賞報告会を開催しました。夜には青木区長を来賓に招き、受賞祝賀会が開かれ、喜びを分かち合い今後益々の活動を誓い合いました。(佐藤正治)



編集後記

毎回原稿が送られてくることが楽しみです。委員の皆さんの気持ちや意気込みがあふれていて、読むたびに温かい気持ちになります。思いがけない言葉にハッとさせられることもあります。投稿いただいた方々、また葛飾民児協だよりに助力してくださった皆様、ありがとうございます。

PCやスマートフォン等の普及により、紙の活字離れが進んでいます。それでも、この広報誌が手に取られ、読まれることで、皆さまの活動の記録が形として残っていくことを願っています。(山田米子)